



芝山小だより

7月号

清瀬市立芝山小学校
校長 清水 一臣
<http://www.kiyose.ed.jp/>

体験やかかわりを通して育つ子供たち

校長 清水 一臣

1学期も残すところあと1か月、登校日数を数えると18日となりました。

これまで、子供たちは6年生による1泊2日（6月6日・7日）の日光修学旅行、5年生による2泊3日（6月24～26日）の立科移動教室をはじめ、様々な体験や人々とのかかわりを通して、学校の勉強だけでは得られないたくさんのことを学びました。



日光修学旅行では、1日目のはじめに足尾銅山の採掘跡を見学しました。子供たちにとっては、ややテーマパーク気分だったかもしれませんが、当時の鉱山労働者のジオラマを見ながら、かつて日本の近代工業を支えた銅山採掘の光と影をわずかでも感じてくれればと思いました。世界文化遺産でもある日光東照宮では、ガイドさんの説明を聞きながら熱心にメモを取るなど、6年生として知的好奇心旺盛な姿が伺えました。特に、「見ざる・言わざる・聞かざる」で有名な三猿の彫刻の前では、猿の彫刻を通じた人の一生を表したストーリーに多くの子供たちが感動した様子でした。残念ながら2日目は雨のために戦場ヶ原ハイキングは実施できませんでしたが、前日の華厳の滝、この日の湯滝、竜頭の滝の日光三名瀑を見るなどして、日光の雄大な自然の一端を感じ取ったことと思います。

立科移動教室では、5年生の子供たちが初日の鷹山ファミリー牧場で、乳牛の乳搾りやバーベキュー体験を行いました。飯盒炊さんや地場産の肉野菜いためを作って食べながら、仲間と協力することの大切さや命の大切さを学ぶことができました。また、翌日の車山登山は快晴に恵まれ、美しいアルプス山系の山々を眺めながら、霧ヶ峰高原の雄大な風景に感動する声が数多く聞かれました。3日目は仲間と一緒に作った手作りの「ほうとう」に舌鼓を打ちました。

6年生も5年生も宿泊行事中にかかわった多くの方々から、「しっかり話を聞き、友達同士がとても仲が良い。」とお褒めの言葉をいただきました。共に小学校時代の忘れられない思い出となったことと思います。



6月には、上記の宿泊行事のほか、4年生による「点字体験」と「認知症サポーター」を通じた福祉学習が行われました。点字の読み書きや認知症の疑似体験を通して、4年生なりに障害について関心をもつことができたと思います。また、4年生は7月1日に恵泉ホームを訪問し、高齢者の方々との交流を行います。

芝山小学校では、今後も各学年の発達段階に応じた様々な体験学習を推進し、自然や文化、様々な人々とのかかわりの体験を通して、豊かな心をはぐくんでまいります。